

閉上の磯船を復元し、講演と船おろしを行ないました（2016/9/24-25）

テーマ：漁業、復興
場所：宮城県名取市閉上

9月24日（土）に、閉上公民館（宮城県名取市）にて、閉上の磯船であるサクバをめぐる講演会（主催：さくば研究会）が行われ、川島秀一教授（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）が「和船と海の文化」と題して、オフナダマ（お船霊）を祀る船と津波のときの「沖出し」との係りなどをテーマに講演しました。

サクバは、東日本大震災の津波によって、閉上で壊滅した和船の呼称ですが、地元の漁師さんから復元の希望があり、船大工のいなくなった閉上では、造船できる人を探していました。川島教授が依頼され、南三陸町歌津の岩石孝喜棟梁を紹介して、復元の運びとなりました。

岩石棟梁は、震災後、各地からの和船の需要に应运えてきており、このサクバで7艘目になります。津波による災害は、文化を一掃するだけでなく、逆に以前にあった技術を蘇らせる機会にもなり得ます。翌25日には、閉上の浜で「船おろし」の神事があり、歌津の岩石棟梁による差配の元で、無事、終わることができました。宮城県において、最後の時代である和船の造船過程（3カ月間）も含め、この儀礼もアーカイブとして記録して残すことができました。船おろしには、貞山運河研究所の皆さんの協力のもと、閉上の人々の見学も多く、この一艘の和船の制作が、今後の閉上の復興の象徴になるであろうと思われました。



講演会とミーティング（閉上公民館）



船大工と船主による儀礼



船を海に運ぶ



海上で右回りに3回めぐる